

インタビュー

## 第3回ウエイト制50代重量級制覇！

## 早田信、逆境を乗り越えた再起の軌跡

2020年、大阪城杯夏の陣の優勝に頭角を現し、その後、全日本選手権やウエイト制、地方大会など数々のシニアタイトルを獲得してきた早田信（極真会館熊本県早田道場）。

2020年から2023年にかけては、主要大会で次々と結果を残し、まさにキャリアの絶頂期を迎えた。だが、それ以降の2年間は簡単な道のりではなかった。敗戦、体調の不調、気持ちの揺らぎ——さまざまな壁にぶつかりながら、思うような結果を残せない時期が続いた。そんな中で迎えた2025年「第3回ウエイト制全日本選手権」。苦しみを乗り越え、自分を取り戻してつかんだ優勝。その復活の舞台裏と、支えとなった思いについて話を聞いた。



2025年、第3回ウエイト制50代重量級で復活優勝。過去に2敗していた伊藤選手に勝利。

——第3回ウエイト制全日本選手権（50代重量級）優勝、おめでとうございます！今回は強豪揃いだったそうですね？

ありがとうございます。本当に、人数も多く、レベルも高くて、簡単に勝てる大会じゃありませんでした。だからこそ、素直に「嬉しい」と思えました。

——2020年から優勝を重ねてきた中で、2023年〜2024年は少し苦しい時期もあったように思います。そのあたり、お聞かせいただけますか？

2022年までは自分の中でも王者を目指す強い気持ちがあって、全日本、地方大会含めて優勝を重ねることができました。ところが、2023年から歯車が少しずつ狂い始めた感覚がありました。

——特に印象的だったのは、統一全日本第2回、第3回大会ですね。両方



2022年、第51回全日本決勝戦（40代の部／49歳で優勝）。

とも伊藤雄選手に準決勝で敗れて3位という結果でした。

ええ。伊藤選手は本当に強い。彼のすごさは、相手の技をもらわない距離感とフットワーク、そしてタフさですね。正直、どちらの試合も「完敗」だったと自分では思ってます。

——ご自身でも工夫やチャレンジをされたと伺っています。

第2回統一大会は、重量級選手のパワーに対抗するために、ウエイトトレーニングを増やして体重も増やしました。でも、その分スパイアやミット稽古の時間が減ってしまっていて、試合勘や実戦感覚が落ちたんです。パワーはあっても、相手に技が当たらない。逆に相手の技はもらってしまう…。完全に裏目でした。

——第3回統一大会では、精神的な難



2023年、第52回全日本（第1回統一全日本48歳以上）でも優勝。

しさもあったとか。

そうですね。本業がテレビ番組制作でして、ちょうどその時期、撮影や編集が立て込みまくっていたんです。睡眠不足が続いて、稽古はしていても気持ちが全く乗ってこない。そんな中で、持病の喘息が再発してしまって、少し動いただけで息が苦しくなって、追い込み系の稽古が一切できませんでした。

——実際の試合では、どのような感覚でしたか？

気持ちの高まりが足りなかったからか、スパーリングみたいな試合でした。全力を出し切れていない。気持ちが乗ってないと、技の威力や集中力も半減するんですね。自分でも「こ

れじゃ勝てない」と感じながら闘っていました。

——その後の大阪城杯夏の陣と香川県大会では準優勝。決勝で敗れた相手には、過去に勝っていたそうですね。

技術的な差というより、「勝ちたい」という想いの差で負けたと思います。対戦相手は目の色変えて襲いかかってきており、本気の覇気を感じました。自分にはそれがなかったんです。

——そこから、何が変わったのでしょうか？

その敗戦のあと、「今の自分には、絶対勝つ」という強い想いが足りてない」と気づきました。それからは、過去に負けた試合を何度も見返して、悔しさを燃料に稽古に打ち込みました。

——稽古の質も変わったと？

そうですね。不思議と、気持ちが上がる稽古そのものが楽しくなるんです。あんなに苦痛だったことが、夢中になってやれるようになった。「今日こそ前回より強くなる」「あの負けを超える」という意識でやっていると、自然と技も冴えてくるんです。

——つまり、復活のキは「技術」ではなく「気持ち」だったと。

技術はもちろん大事。でもそれを支

えてるのは、稽古に向かう心だと思います。大会の日までどれだけ覚悟で稽古をしてきたか。それが試合にすべて出る。今回の第3回ウエイト制はその「覚悟」があったから、勝てたと思っています。

——では、次の目標を教えてください。

11月のオーストラリア・ワールドカップです。世界中の猛者が集まる舞台。今の自分がどこまで通用するか試してみます。気持ちを高く保って、優勝を狙います。

——最後に、メッセージをお願いします。

年齢や仕事環境・稽古環境を言い訳にせず、自分のペースで強くなればいいと思います。負けたときこそ、本当のスタート。負けは悪いことではなく、自分に足りないものを発見する機会。大事なのは、「もう一度勝ちたい」と思えるかどうか。その気持ちが、また前に進む力になります。全国の選手皆さん、お互い頑張りましょう。

——早田さん、素晴らしいお話をありがとうございました。オーストラリアでのご活躍を楽しみにしています！



熊本県職員に対するyoutube動画制作講座で講師を務める。



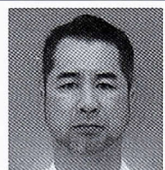
カメラを回しながらインタビュー。海外取材もこなす。



災害現場の撮影。忙しい日々が歯車を狂わせることも…。



# 壮年男子(50歳~59歳)重量級の部(70kg以上)



31 古川晋也  
少林拳空手道  
四段/15年  
177cm/82kg/52才



32 馬場 仁  
極真横浜元町  
2級/4年  
180cm/83kg



33 工藤康弘  
康心会  
五段/30年  
168cm/78kg/54才



34 藤澤賢一  
極真坂本派泰野道場  
参段/30年  
170cm/80kg/51才



35 加藤一博  
極真横浜戸塚  
五段/36年  
172cm/75kg/56才



36 笹倉聖司  
白蓮会館大阪狭山堺中支部  
4級/6年7ヶ月  
172cm/82kg/53才



37 信澤憲彦  
極真広島  
1級/4年4ヶ月  
172cm/85kg/55才



38 伊藤 雄  
世界全極真長谷川道場  
四段/31年1ヶ月  
173cm/88kg/49才



39 有銘 保  
白蓮会館沖縄支部  
参段/18年  
176cm/75kg/55才



40 東 真巳  
極真坂本派座間道場  
1級/8年  
173cm/85kg/54才



41 松木洋三  
極真愛媛  
初段/6年5ヶ月  
177cm/87kg/50才



42 徳元秀樹  
極真横浜元町  
四段/35年  
180cm/110kg/51才



43 新井領一郎  
極真城西  
貳段/30年1ヶ月  
177cm/77kg/59才



44 笠原正之  
大阪拳友会  
貳段/35年  
170cm/79kg/54才



45 早田 信  
極真熊本  
五段/36年  
170cm/79kg/52才

壮年男子(50歳~59歳)重量級の部(70kg以上) 15名 Dコート

